



～細かい行動が大きな結果に～

知的資産経営報告書2023年版



アトム・ロジスティクス株式会社

目次

I. ごあいさつ	2
II. 当社の紹介	3
(1) 基本理念・モットー	3
(2) 事業概要	4
(3) 沿革	7
III. 知的資産	8
(1) 現在価値創造ストーリー	8
(2) 行動哲学	9
(3) 組織	11
(4) スタイル	12
(5) スキル	13
(6) パートナー	14
IV. 地域活動	15
V. SDGs への取り組み	16
VI. 将来ビジョン	17
(1) 将来へ向けた取り組み	17
(2) 具体的な取り組み内容	18
(3) 将来価値創造ストーリー	19
VII. 企業概要	20
(1) 企業概要	20
(2) 知的資産経営報告書について	21

1. ごあいさつ

代表あいさつ

「お客様を大切にし、誠心誠意行動する」、2011年の創業以来、この思い一筋に駆けてまいりました。通関業務に始まり、梱包業務、陸上輸送業務、海上輸送業務など、国際物流のトータルコーディネートを当社では行っています。

当社の持ち味は、社員個々が持つ「スキル」、成果を生み出す「組織」、信頼できる「パートナー」の存在、仕事に対し真摯な「スタイル」です。この度、当社ではこれらの持ち味をより可視化することを目的として知的資産経営に取り組みました。商流分析や業務プロセス分析、沿革の整理、知的資産台帳の整理を通じて自社を客観的に見つめなおし、お客様へ価値をお届けしているメカニズムを明確にしました。また、経営環境の分析も行い、将来ビジョンの考察も行いました。

そして、今回の取り組みを自社の社員だけでなく、当社を取り巻く関係者の方々と共有できるよう、レポートとしてまとめました。

2022年、自社で梱包業務を行う体制を整えました。通関事業者が自社で梱包業務を行う事例は見受けられず、革新的な取り組みです。通関業務と梱包業務を中核として、「輸出入における安心感」をお届けできるよう、スタッフ全員で努力を重ねていきたいと考えております。

当社の新たなチャレンジを皆様に見て、感じていただけるよう誠実に取り組んでまいります。今後ともご指導の程、よろしくお願いいたします。

2023年1月

代表取締役社長 巖原 弘樹
(いずはらひろき)



Ⅱ. 当社の紹介

(1) 基本理念・モットー

基本理念

- 一. お客様の立場になり行動致します。
- 一. お客様の利益につながる内容を常に考えております。
- 一. お客様の疑問には素早く対応致します。
- 一. お客様に頂いたご案件に対し迅速かつ正確に対応致します。
- 一. お客様に必要な情報をタイムリーに提供致します。

アトム・ロジスティックス株式会社のモットー

我々はサービス業であり、先ず第一にお客様を大切にし
誠心誠意をもって行動する。
ふんぞり返ってはいけません。

アトムコンセプト

「無」から「有」へ！アトムも一緒になって考えます。

お客様のこれからを担う輸出入業務をお任せいただくにあたり、初めて海外との取引をされる場合にも、今まで以上の効率化を図り利益体質の改善に努めていかれるお手伝いをさせていただき、アトムも一緒になってお客様目線で物事をとらえ、輸出入業務を通じて伸ばしていきたいと考えています。

アトムはエキスパート集団です。

アトム・ロジスティックスは単に荷物をお預かりして運ぶだけの会社ではありません。

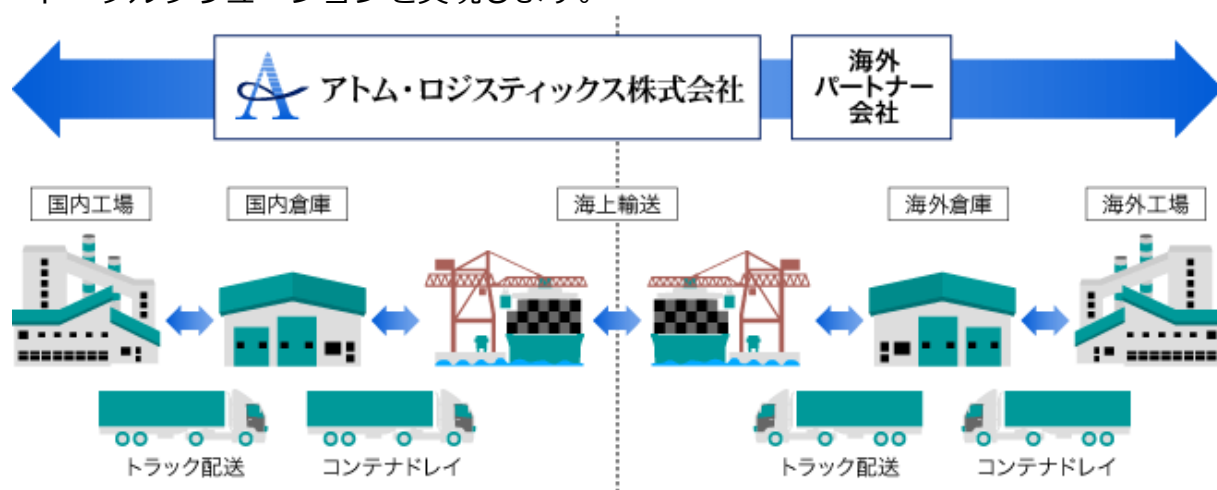
国内外にいる有力で信頼のできるアトムパートナーと連携し、貨物特性に応じた輸送方法などお客様のニーズにお応えできるよう、常にベストなソリューションをご提案していくためのエキスパート集団になれるよう努力しています。

Ⅱ. 当社の紹介

(2) 事業概要

■ 物流トータルソリューション

従来型の物流のあり方にとらわれず、「改善」を前提とした考え方を常に持ち、お客様の立場に立って最適な物流効率を計算してご提案させていただきます。今までの「物流」にこだわらない細かな行動とネットワークで大きな枠組みで「物流」をとらえてコストの削減、リードタイムの短縮、更には地球環境に考慮したトータルソリューションを実現します。

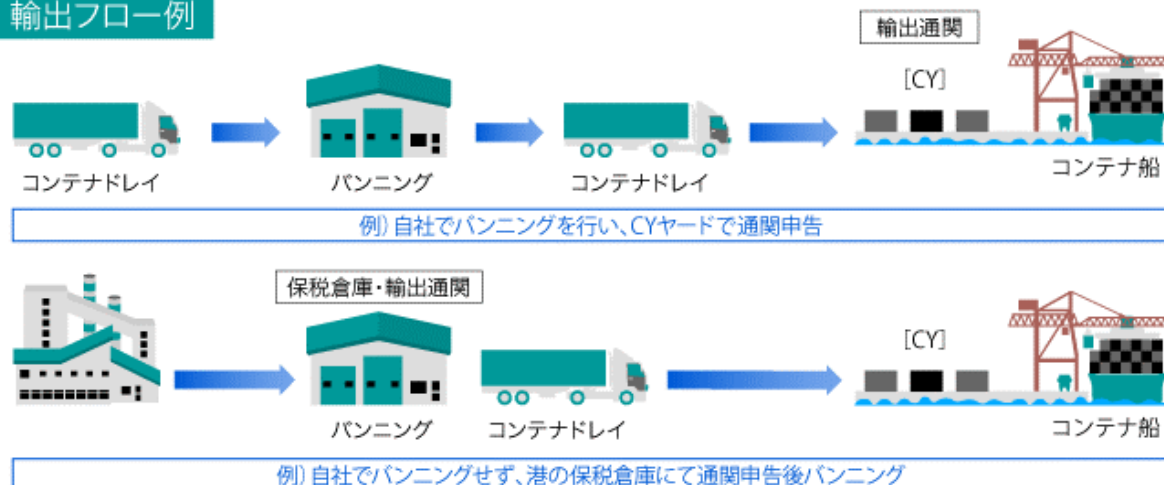


アトム・ロジスティクス株式会社が海外パートナーと連携しDoor to Doorで輸出入を一貫手配

■ 輸出入サポート（輸出）

輸送業務だけに留まらず、お客様にとって負担となる付帯業務を広い視野で行うことにより、お客様のニーズに応じたトータルコーディネートを行うことが可能となります。アトム・ロジスティクスでは独自の感性をもって、質の高い輸出サポートを行います。

輸出フロー例

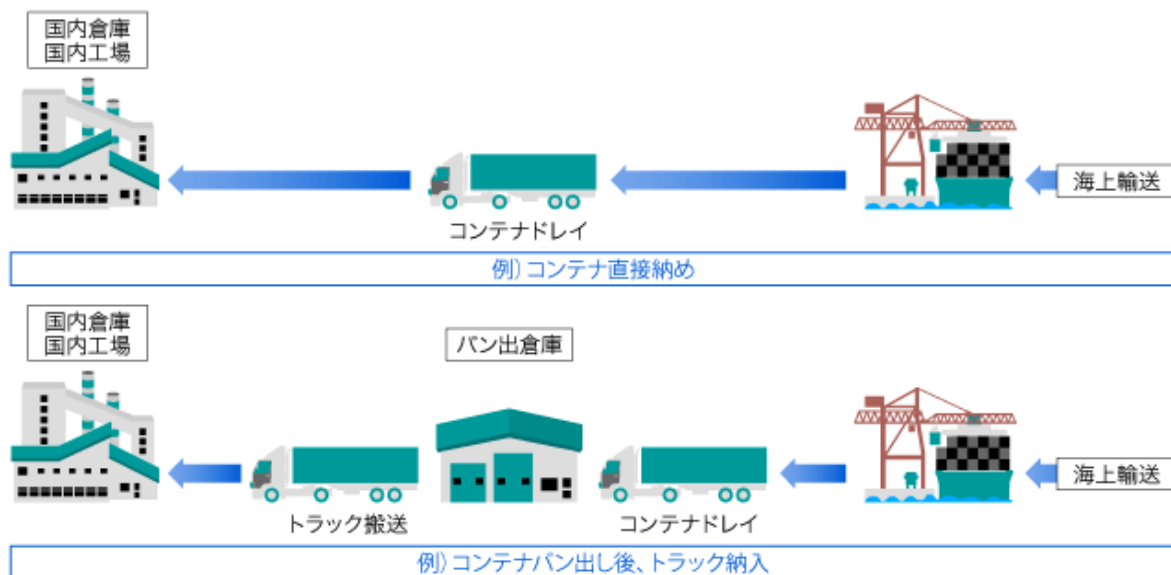


Ⅱ．当社の紹介

■輸出入サポート（輸入）

海外から国内、そして納入先まで様々な方向からの物流プランで、トータルコーディネートをご提案します。細やかな対応と行動でお客様のご要望にお応えできると考えています。

輸入フロー例



■輸出入通関サービス

専門の通関士がお客様にとって最良となる輸出入貨物の通関手続きを行います。
また、SEA-NACCSを通じて税関・ヤード・倉庫とのデータ共有を行い、正確でスピーディーな通関処理を行っています。



Ⅱ. 当社の紹介

■ 貨物梱包サービス

様々な商品の形状や重量、輸送経路の状況などを考慮した梱包設計・梱包作業を行い、お客様の貨物を安全に納品先までお届けします。

コンテナの種類

ドライコンテナ



オープントップコンテナ



フラットラックコンテナ



梱包業務紹介

CASE

密閉木箱なので、全体的な保護効果が期待できます。



CREATE

透かし木箱なので梱包後にも、内容物を把握する事が可能です。



SKID

あらかじめ設計した土台に、対象物を据え付ける簡易的な梱包方法です。



強化ダンボール

簡易的な小型ダンボール箱や、段積み強い3層強化ダンボール等、内容物に応じて設計変更が可能です。



防錆処理

海上輸送の際に寒暖の差から生じるコンテナ内の結露、海岸付近の潮風、突然の雨などから錆の発生を防ぐ処理の事です。



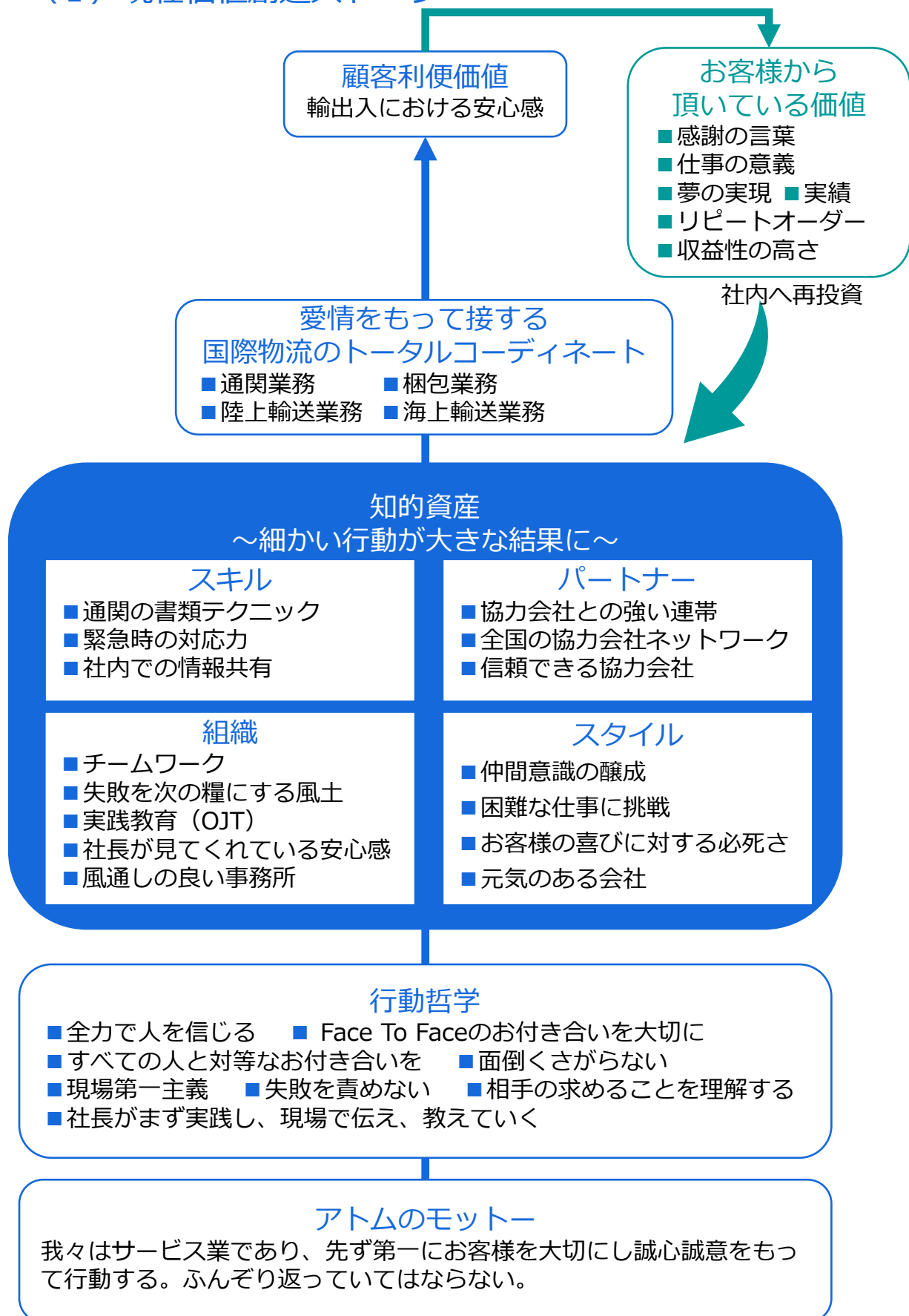
Ⅱ. 当社の紹介

(3) 沿革

	年月	出来事	知的資産との関連
創業期	2011年6月	アトム・ロジスティックス株式会社 設立	協力会社の基盤が不十分なため北海道や九州の仕事を断って悔しい思いをした。協力会社のネットワーク作りが大切だと感じた。
	2011年7月	第一種貨物利用運送事業取得	
	2015年11月	通関業許可を税関長より受ける	
転換期	2016年6月	海外有名ブランド展示会のブース輸送の業務を受託	22時からの夜間業務をみんなで協力してやり遂げた。
	2016年7月	アイドルグループのコンサート物流業務を受託（コンサート機材の通関と3か所の国内輸送）	5年かけて協力会社ネットワークを整備した成果。仲間意識の大切さを学んだ。
	2017年5月	アイドルグループのコンサート物流業務を受託（2回目、国内6か所）	現場第一主義が業務遂行力の源泉であることを学んだ。
	2017年8月	大手通販会社の倉庫ラック設営業務を受託	
	2017年12月	本社事務所移転	風通しの良さや情報共有のしやすさを意識した。
発展期	2018年12月	東京営業所開設	協力会社に多大な支援をいただいた。
	2019年7月	アイドルグループのコンサート物流業務を受託（3回目）	困難な仕事に懸命に取り組むことがリピートオーダーにつながることを実感
	2022年7月	梱包部を開設	更なる発展に向けての取組み

Ⅲ. 知的資産

(1) 現在価値創造ストーリー



Ⅲ. 知的資産

(2) 行動哲学

■ 全力で人を信じる

社内の人であっても、社外の人であっても、全力で信じたいと考えています。

人を信じることから信頼関係の構築がスタートします。

採用した社員は全員、間違いのない人材であると確信しています。

■ Face To Faceのお付き合いを大切に

社内でも、社外でもFace To Faceのお付き合いを重視しています。

オンラインミーティングも便利なツールではありますが、用件しか伝えられないという難点があると考えています。

■ すべての人と対等なお付き合いを

お客様も協力会社もビジネスでかかわる人はすべて対等です。

対等な関係であることが、「仕事の依頼しやすさ」「仕事の依頼されやすさ」のベースであると考えます。

対等な関係づくりをするために、「相手が話しやすい環境づくりをする」「粘り強く時間をかけて関係づくりをする」ということにこだわっています。

■ 面倒くさがらない

人のために動くということを大切にしています。

依頼ごとに対してはできる限り断らず、前向きに取り組むようにしています。

面倒くささや失敗を恐れていません。

Ⅲ．知的資産

■現場第一主義

現場重視は情報入手の速さを生み出します。

早く情報を入力すれば、先手が打てます。

現場第一主義が業務遂行力の源泉です。

■失敗を責めない

失敗をするということは、失敗できるレベルまで踏み込んで仕事をしているということです。

失敗は分析すれば、良い経験となります。

失敗を次に活かすことが大切です。

失敗しても追い込まず、悔しがってもらい、次こそは失敗しないという気持ちになってもらうことが大切です。

■相手の求めることを理解する

相手の立場に立って考えることが大切です。

求めることを理解することで、期待を超えることができます。

■社長がまず実践し、現場で伝え、教えていく

社員が困っていそうな時には、社長が率先して「どうした？」と声掛けをするようにしています。

社長が直接OJTをすることも多々あります。

社長自らが細かい行動を大切にし、範を示すようにしています。

Ⅲ．知的資産

（３）組織

■ チームワーク

個人プレイにせず、チームワークで仕事をすすめています。

困っていそうな人がいれば「どうしたの？」と察してあげる社員が揃っています。

助け合える仲間が集まり、力を合わせています。

■ 失敗を次の糧にする風土

失敗は挑戦をした証であると考えています。

失敗をフォローしてくれる社長や先輩もいます。

失敗事例も共有して、組織として次に活かすようにしています。

■ 実践教育（OJT）

初めて取り組む仕事では、過去の事例もマニュアルありません。

実践の中で試行錯誤しながら学んでいきます。

そのような新たな仕事の時には、必ず社長が現場に入り、実践し、社員に伝えて教育を行っています。

■ 社長が見てくれている安心感

社長の目配り・気配り・心配りで職場の心理的安全性が確保されています。

■ 風通しの良い事務所

困っていそうな時に声をかけやすい社内環境があります。



Ⅲ. 知的資産

(4) スタイル

■ 仲間意識の醸成

みんなで作り上げる良い現場にこだわっています。

社内、協力会社、お客様と仲間意識を醸成しながら仕事をすすめています。

お金を払っている・お金を貰っているは関係なく、すべての関係者が一緒に仕事をしている大切な仲間であると考えています。

かかわる人みんなが、やりがいと喜びを感じる仕事を目指しています。

■ 困難な仕事に挑戦

困難な仕事は手間がかかり、リスクも高いです。

しかし、困難な仕事こそ達成感が大きく、お客様の喜びも大きいものです。

■ お客様の喜びに対する必死さ

通関許可手続きは、時には1分・1秒のスピードを争う場面もあります。そのような時に結果を左右するのは必死さです。

お客様に喜びをお届けするため、その時々であらゆる手段を講じます。

■ 元気のある会社

お客様が仕事を依頼したくなる会社であり続けたいと思っています。

挨拶や電話対応は元気に。

一緒に仕事をできることの嬉しさを相手に伝えるようにしています。



Ⅲ. 知的資産

(5) スキル

■ 通関の書類テクニック

情報力や経験値のあるスタッフが通関書類の手続きを行っています。

税関の着目点を理解する力量の高さが持ち味です。

■ 緊急時の対応力

トラブルが発生した際には、すぐにお客様へ連絡を入れるようにしています。

商品破損があった際には写真を撮り瞬時に報告をしています。

ベストではないがベターな解決策へ導くことで、スピード対応を心掛けています。

■ 社内での情報共有

新たな情報が手に入れば、その都度、メール等で社内共有をしています。

わからないことがあれば社内でお互いに確認しあい、尋ねあっています。

トラブル対応の事例も全員で共有しています。



Ⅲ. 知的資産

(6) パートナー

■ 協力会社との強い連帯

困った時に助けてもらえる協力会社があります。

社長が協力会社のトップと交流し、ホットラインを確保しています。

■ 全国の協力会社ネットワーク

かつて、協力会社の基盤が不十分なため、北海道や九州のご依頼をお断りしたことがありました。とても悔しい思いをしました。

協力会社の全国ネットワークが必要だと感じ、構築に着手し、2016年に完成しました。

■ 信頼できる協力会社

「人を大事にしてる会社」

「社員愛のある経営者」

「経営者と社員の信頼関係がある」

「社員の顔が生き生きとしている」

これらが当社の協力会社が持っている特長です。



IV. 地域活動

KCV構想への賛同

当社梱包部が工場を構える大阪市住之江区の北加賀屋エリアはかつて造船業で栄えた街でした。北加賀屋では、壁画やアートをきっかけに、創造的で魅力ある街づくりを行う「KCV（北加賀屋クリエイティブ・ビレッジ）構想」が進められています。

当社でも、北加賀屋を「活気に満ちたチャレンジできる街」にしたいと考え、このKCV構想に賛同・協力させていただいております。

クリエイターやアーティストの皆さんと一緒に、活気に満ちた街にしていきたいと思います。



「KCV（北加賀屋クリエイティブ・ビレッジ）構想」とは

北加賀屋エリア（大阪市住之江区）を創造性あふれる魅力的なまちに変えていく試みとして、2009年、一般財団法人おおさか創造千島財団により提唱されました。

あらゆるジャンルのアーティストや、ものづくりに関わるクリエイターなど、創造的な活動を行う人々が北加賀屋に集うような取り組みを進め、国内だけではなく世界に向けて情報発信することで、このエリアの魅力が向上し、「行ってみたい」「住んでみたい」と思われる場所になることを目指しています。



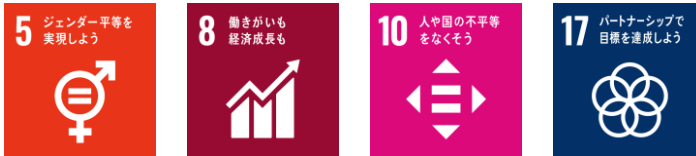
出典：一般財団法人おおさか創造千島財団ホームページ
<https://chishima-foundation.com/>

V. SDGsへの取り組み

当社が取り組むSDGs



■多様な人材が活躍できる職場づくり



当社では国籍や性別、年齢にかかわらず、意欲のある人を積極的に採用しています。通関部門においては外国籍の方が、語学力を活かし頑張ってくれています。

また、梱包部は力仕事で男性の職場というイメージが強いですが、機械設備の活用など、環境整備を行うことで、男女関係なく活躍ができます。「梱包女子」というテーマのもとで、女性の梱包部員を積極的に採用していきたいと考えています。

■パートナー企業との連携強化



当社は通関ノウハウと梱包技術を軸に、パートナー企業と連携しながら、国際物流のトータルコーディネートを推進していきます。

特に梱包部門においては、同業の梱包企業と幅広い連携をしていきたいと考えています。梱包業務は貨物ごとにサイズや重量、形状が異なり、様々なニーズが存在します。梱包事業者それぞれに得意分野がありますので、同業企業と有機的に連携しながら、お客様にベストの解をご提供していきたいと考えています。

■KCVへの賛同・協力による街づくり



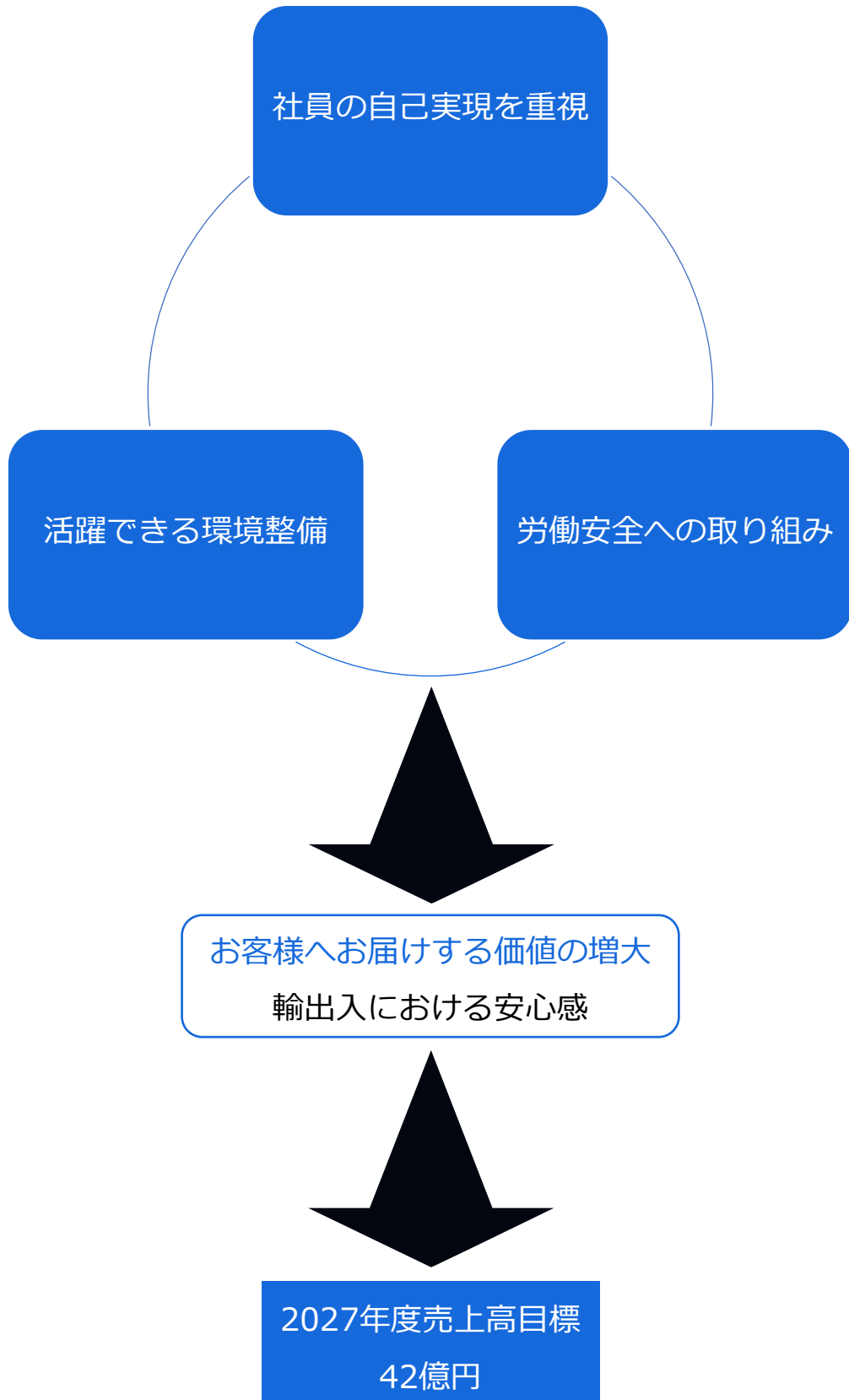
前述のとおり、当社はKCVに賛同・協力させていただいております。

北加賀屋エリアを「活気に満ちたチャレンジできる街」にしたいと考えております。

Ⅵ. 将来ビジョン

(1) 将来へ向けた取り組み

～今後も選ばれ続ける会社であるために～



Ⅵ. 将来ビジョン

(2) 具体的な取り組み内容

■社員の自己実現を重視

当社では闇雲に経営規模の拡大を追うということは絶対に行いません。

新たな投資や規模拡大を行う判断基準はただ一つ、「社員の自己実現につながるかどうか？」です。

社員の物心両面の幸福につながるのであれば、新たなビジネスへの取り組みを行います。また、国内外を問わず事業拠点の開発も行います。

■活躍できる環境整備

お客様へ価値をお届けするために、社員同士で情報共有を行い、ベクトルをあわせ、全社一丸となって日々の業務に取り組んでいます。

今後もチームワークで仕事をすすめていけるよう、活躍できる環境整備に取り組みます。具体的にはコミュニケーションをとりやすい職場環境の整備、生産性向上につながる機械設備の導入、教育プログラムの明確化、免許・資格取得の推進などです。

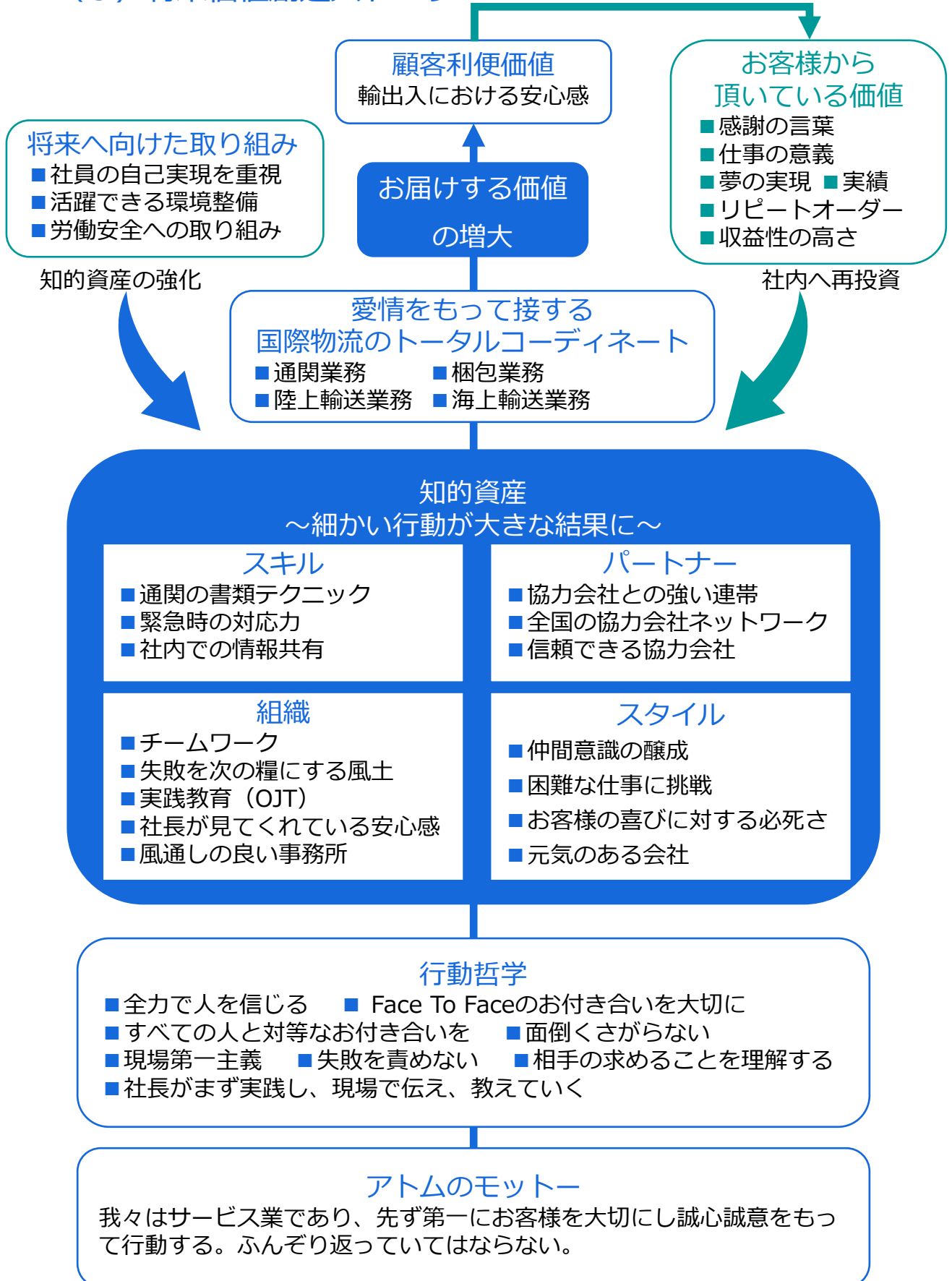
■労働安全への取り組み

2022年に創設した梱包部では重量物を扱うことが多く、労働災害リスクと隣り合わせの業務です。社員・お客様・協力会社・来訪者のニーズに応えるために、労働安全衛生におけるリスクを除去または最小化していきます。

具体的には、労働安全衛生マネジメントシステムを構築し、ISO45001の認証取得を目指します。

VI. 将来ビジョン

(3) 将来価値創造ストーリー



VII. 企業概要

(1) 企業概要

名称 アトム・ロジスティックス株式会社

大阪本社 〒552-0021
大阪府大阪市港区築港2-1-2 第一大阪港ビル1F A号室
TEL/06-6577-2439 FAX/06-6577-2441

東京営業所 〒105-0014
東京都港区芝1-14-4 芝罎田ビル6階
ウォーレム シッピング リミテッド 内
TEL/03-6381-7764 FAX/03-6381-7350

梱包部 大阪府大阪市住之江区北加賀屋5-4-89

創立 平成23年6月24日

代表取締役社長 巖原 弘樹（いずはらひろき）

事業内容

- 1.通関業務
- 2.輸出入手続の代行業務
- 3.国際複合一貫輸送
- 4.輸出貨物梱包
- 5.海陸運送取扱
- 6.貨物利用運送
- 7.一般港湾運送
- 8.税関貨物取扱
- 9.損害保険代理

VII. 企業概要

(2) 知的資産経営報告書について

【知的資産経営報告書とは】

「知的資産」とは、企業における競争力の源泉である人材、技術、技能、知的財産（特許・ブランドなど）、組織力、経営理念、クライアントとのネットワークなど財務諸表には表れてこない、目には見えにくい経営資源を意味します。「知的資産経営報告書」とは、見えにくい経営資源、即ち非財務情報を、債権者、株主、クライアント、従業員といったステークホルダー（利害関係者）に対し、「知的資産」を活用した企業価値向上に向けた活動（価値創造戦略）の形でわかりやすく伝え、企業の将来性に関する認識の共有化を図ることを目的に作成する書類です。平成17年10月に経済産業省から「知的資産経営の開示ガイドライン」が公表されており、本報告書は原則としてこれに準拠しています。

【知的資産経営報告書の掲載内容について】

本知的資産経営報告書に掲載しました将来の経営戦略及び事業計画ならびに付帯する事業見込みなどは、全て現在入手可能な情報をもとに、当社の判断にて掲載しています。そのため、将来にわたり当社の取り巻く経営環境（内部環境及び外部環境）の変化によって、これらの記載内容などを変更すべき必要が生ずることもあり、その際には本報告書の内容が将来実施又は実現する内容と異なる可能性もあります。よって、本報告書に掲載した内容や数値などを、当社が将来に亘って保証するものではないことをご了承願います。

【知的資産経営報告書のお問い合わせ先】

アトム・ロジスティックス株式会社

〒552-0021

大阪府大阪市港区築港2-1-2 第一大阪港ビル1F A号室

代表取締役社長 巖原 弘樹（いずはらひろき）

携帯電話／080-3783-2439 TEL／06-6577-2439



<https://atom-logi.co.jp/>